

安く 気軽に 楽しめる 鉄道の旅へ！

首都圏内からの鉄道旅行入門

3年C組 関空特急はるかの憂鬱

1. 鉄道旅行に行こう！

鉄道での旅行は費用が高くて難しい！と思われるのは仕方がない。今時の旅行は自家用車やバスツアーなどで安く簡単に出来てしまうからだ。が、それで鉄道旅行を諦めてしまうのはもったいない！ひと駅ひと駅目的地に近づいていくワクワク感や開放的な車内でのんびり車窓を眺めるひとときは車や飛行機じゃ絶対に味わえないものだ。鉄道の旅と言うのはただ目的地へ急ぐものではなく、その道中の景色や光景、さらには列車そのものを楽しむ要素も含んでいる。

でもやっぱりお高いんでしょう？——確かに、地方のローカル線巡りや秘境駅探訪など宿泊を伴う本格的な鉄道旅行はそれなりのお金がかかる。でもそのお金を工面してまで出かきたいと思うのは、鉄道の旅が楽しいことを知っているからだ。そして私はその楽しさをひとりでも多くの人に感じてもらいたい！ということで今回は身近なところ（首都圏）から鉄道旅行を“安く”“気軽に”“楽しく”体感していただきたく、この記事を投稿することを決意した。鉄道の旅の基本の基本から首都圏内のおすすめスポットまで、鉄道旅行の入門編は全てこの記事に集約されているので、「鉄道の旅なんて・・・」なんて思っているあなたも、読み終わる頃にはきっと鉄道旅行の計画を立て始めているに違いない。



それでは、出発進行～！

2. 旅の始まりは切符から

鉄道の旅を始めるにあたってまず必要なものは切符だ。その中でも、発駅と着駅までの運賃を払って購入する乗車券（普段私たちが“切符”と呼んでいるのはこの乗車券のこと）は列車に乗るにあたっては欠かせない存在で、この料金をいかに安くするかが鉄道旅行の明暗を分ける重要なポイントなのである。初めての鉄道旅行では旅費はなるべく安く抑えたいところ。そこで今回は鉄道の旅・入門編ということで首都圏内を安く巡るためにおすすめしたい乗車券の買い方を2つご紹介。ちょっと難しい話も入ってくるが、一つ一つ噛み砕いて説明するので気を楽しんで読み進めていただきたい。

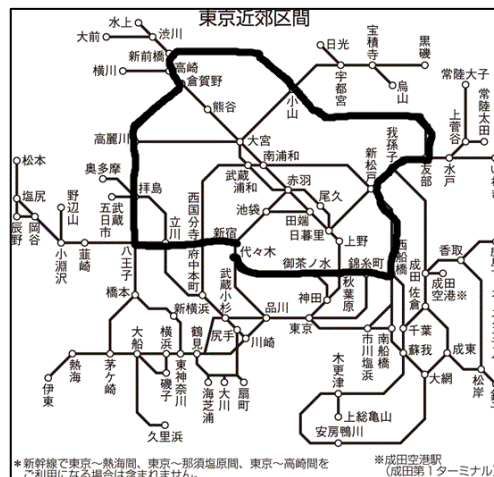
最初にご紹介する方法は、「初乗り運賃の切符を購入する」というものだ。はじめに断っておくがこれは JR線でのみ有効な方法 である。2016年現在、首都圏内のJR線の初乗

り運賃（その鉄道線で最も安い運賃のこと）は概ね 140 円で落ち着いている。その 140 円の切符を手には一体何が出来るのか。驚くことなかれ、その一枚で千葉にも群馬にも行くことが出来る！ これは一体どういうことだろう。

実は JR 線では、下に示した範囲内の移動であればどの経路を選択しても最も安くなる経路で計算された運賃で乗車することが出来るという特例が存在する。この経路選択は、

下のマップの範囲内での移動かつ重複しない限りはどんな経路でも通れるのだ。従って、隣の駅までの切符 140 円を購入して房総の海や群馬の田園風景を車窓から眺めることが出来る！ 俗にこのような乗車方法を“大回り乗車”と呼ばれる。

そしてもう一つ。この乗車方法では途中下車が一切できないことに要注意。途中下車とは有人駅（駅員が駐在している駅）では改札を出ること、無人駅（駅員が駐在していない駅）では列車から降りることである。だから、残念ながら列車から降りて町を観光・・・というわけにはいかない。それでも 140 円で首都圏各地を訪れることができるとてもお得な方法。その他、大回り乗車についてはインターネット等で検索するとたくさん情報が出てくるのでこちらも参考にされたし。



図は JR 東日本 HP より。大回り乗車ならば南は安房鴨川駅、北は小山駅や高崎駅などに行くことが出来る。太い黒線は大回り乗車の例。

そしてもう一つの方法はフリーきっぷを買うこと！ フリーきっぷとは簡単にいえば指定された範囲内の指定された鉄道やバスなどが乗り降り自由となる切符のことで、これは JR に限らず私鉄各社からも発売されており、フリーきっぷから行き先を決めることもあると言っても過言ではない。一つ例を挙げると、東京メトロから通年販売されている東京メトロ 24 時間乗車券。大人 600 円での発売となるこの乗車券は利用開始から 24 時間以内は東京メトロの路線全てが乗り放題というものだ。もちろん改札は何度でも出られるし、さらに有効期限が利用開始から 24 時間なので日を跨いでも利用可能という非常にお得なチケット。

今の例は一つの鉄道会社路線が乗り降り自由なタイプだが、他に目的地別タイプがある。右の写真は南伊豆フリー乗車券というもので、小田原駅からフリーエリアの入り口である伊東駅までの往復の普通乗車券と、伊東駅から伊豆急下田駅までの範囲のバス・鉄道線の乗り放題券がセットになったものだ。



フリーきっぷは鉄道会社各社の HP などにたくさん載っているので一度見てみるといいだろう。

3. 時間を決めていざ出発！

さあ行き先や乗車券を決めたらよいよ具体的な計画段階に移ろう！ 計画を立てる順序としてはオーソドックスに出発駅から順にルートを確認させつつ列車の時間を調べていく方法の他に、目的地に到着したい時間から逆算してルートや列車を詮索していくやり方なども挙げられる。このように複雑な時間設定とルートを有する鉄道旅行の場合は、計画



を立てる段階で”時刻表”と呼ばれる列車の時刻が詳細に記載された分厚い冊子を用いるのが一般的。時刻表は列車同士の時間的關係や途中駅の停車時間などを簡単に把握することができるが、手短な首都圏内完結の旅行の場合は「Yahoo!乗換案内」などのスマートフォン用乗り換え案内アプリで概ね間に合ってしまう。今日のスマートフォンアプリは極めて進歩しているので、わざわざ時刻表を用いらずとも経路駅指定や交通手段の限定などといったオプション設定を適用することで滞り無く遂行できるのだ。さらに旅行中に人身事故や自然災害などによって行程遂行が困難となっても直ちに代替のルートを検索できるので、いざという時の心強い味方にもなるだろう。

ただ、さすがのアプリでも左の図のように一日がかりの大掛かりな行程や、注文が多すぎるルートに関してはその全てに答えることは出来ない。こういったケースのためにも時刻表の読み方をしっかりと覚えておきたい。JR 線を乗り回す場合は「コンパス時刻表」がおすすだ。コンパクトながらも JR の全線全駅の時刻が記載されているため非常に使いやすい。時刻表の読み方は巻頭に丁寧に解説されているため、初めて時刻表を扱う方でも問題なく使いこなすことが出来る。また同じく巻頭ページには JR 全国全路線が描かれた路線図も載っているため、駅や路線の位置関係も把握出来るので是非見てみよう。

を立てる段階で”時刻表”と呼ばれる列車の時刻が詳細に記載された分厚い冊子を用いるのが一般的。時刻表は列車同士の時間的關係や途中駅の停車時間などを簡単に把握することができるが、手短な首都圏内完結の旅行の場合は「Yahoo!乗換案内」などのスマートフォン用乗り換え案内アプリで概ね間に合ってしまう。今日のスマートフォンアプリは極めて進歩しているので、わざわざ時刻表を用いらずとも経路駅指定や交通手段の限定などといったオプション設定を適用することで滞り無く遂行できるのだ。さらに旅行中に人身事故や自然災害などによって行程遂行が困難となっても直ちに代替のルートを検索できるので、いざという時の心強い味方にもなるだろう。

ただ、さすがのアプリでも左の図のように一日がかりの大掛かりな行程や、注文が多すぎるルートに関してはその全てに答えることは出来ない。こういったケースのためにも時刻表の読み方をしっかりと覚えておきたい。JR 線を乗り回す場合は



様々な時刻表。コンパス時刻表は JR 時刻表と記載内容がほぼ同じながらもおよそ半額で買える。

4. 首都圏おすすめ旅行スポットと本記事のまとめ

ここまでの記事で読者の皆さんは鉄道の旅・入門編のステップを全てクリアしたわけだが、次は私イチオシ・鉄道旅行おすすめスポットを紹介していきたい。

まずはJR東日本の**八高線**！八高線は、中央線や京王線が乗り入れている八王子駅から群馬県の高崎駅までを結ぶ路線だ。おすすめスポットというよりは鉄道路線そのものだがこの路線を推す理由は何と言ってもその独特の雰囲気。東京近郊にいながらローカルチックな趣や広々とした田園風景を味わえるこの路線は鉄道旅行デビューにピッタリのスポットである。さらに途中の高麗川駅から高崎駅までの間は首都圏内では、中々乗車機会に恵まれないディーゼルカーによって運行されているところも魅力。大回り乗車でも訪問可能なのでぜひどうぞ！

そして次は、いま何かと話題の**箱根**だ。日本有数の温泉地である箱根は秋の紅葉シーズンには日本人のみならず世界各国から多くの観光客が訪れる人気の観光地である。アクセ



スは新宿駅から出ている小田急電鉄の特急列車・ロマンスカーが便利。終点の箱根湯本駅の周辺には数々のホテルやお土産屋が軒を連ねており散策しているだけでも楽しい。さらに箱根湯本駅から先も、急な坂道を美しい山岳風景を眺めながら登っていく箱根登山鉄道やケーブルカー、先日全線で運転を再開した箱根ロープウェイ、そして芦ノ湖の遊覧船と続いており、1泊しても十分に堪能できるスポットだ。疲れた後はのんびり温泉に入って一息つくのもいいだろう。

読者の皆さん、ここまで読んでみていかがだったでしょうか。「私も鉄道旅行行ってみようかな・・・」と少しでも思っただけなら著者としてこれ以上の喜びはない。こうして考えてみると鉄道の旅というものも案外誰にでも始めることができることがおわかりであろう。今の時代はインターネットなどで誰でも気軽に情報の検索が出来るようになったので以前より格段に敷居が低くなったというものその理由の一つだ。

今回の記事を参考に皆さんにもぜひ一度鉄道の旅に出てみてはいかがでしょうか。